

震災後のわが社

～ 被災地再開事業所紹介 ～

株式会社メイコー福島工場

所在地：双葉郡広野町

事業内容：電子回路基板の製造



双葉郡広野町にある私たち株式会社メイコー福島工場は、震災による原発事故により全員避難指示を受け操業停止に追い込まれました。各地に避難した従業員たちは、その後神奈川県の本社に設置した対策本部を中心に、互いに連絡をとりつつ、復興を目指して幾度にもわたって現地調査をおこない、インフラの復旧や放射線量のレベルを把握した結果、4月末には再開に向けた活動を開始しました。

最初はまず8名で復旧作業を開始しました。「こんなことで、これまで従業員一丸となって築いてきた福島工場を失うわけにはいかない！」という強い想いをもった8名は、まず設備の転倒やダクトの崩落などで歩くこともできない工場内の徹底的な片付けからスタートしました。未曾有の困難に直面したその時のメンバーの働きは凄まじく、わずか1週間で広い構内の片付け作業が完了しました。

また、中に入れなかった1か月半ほどの間に漏れた薬液が気化し、工場全体がサビだらけになったため、これも1週間かけて工場内すべてを磨きつづけました。そこまでしなければ品質的に合格点が出せない状況でした。

またお客様の注文には、ほかの生産拠点での代替生産で対応しましたが、生産工場の変更は、お客様にとっても大きな負担になります。それでも当社への発注を継続いただいたのみならず、後で工場が復旧した際に、再度福島工場に戻していただきました。このようなご支援が工場再開の非常に大きな原動力になりました。

その後避難指示が解け、工場の復旧が進んで、いざ従業員を呼び戻す段階になると、地元での住宅探しがいよいよ大変でした。ほとんどの従業員が自宅には戻れない状態だったので、何とか住むところを確保しなければなりません。しかし、残念ながら地元のアパートは、全国から集まる復興関係者がほとんど抑えていて借りられる余地はほとんどありませんでした。その中で毎日毎日不動産屋に通い詰めていくうちに、少しずつ物件がでてきて、やっと住める状況になってきました。今ではだいぶ住宅事情もよくなりましたが、それでもなお住居の確保には苦勞しています。

防災の面でも、柱に筋交いを追加した補強工事や設備の転倒防止策のほか初動対応を判断するための地震計を整備しました。またグループ全体を対象とした安否確認システムも導入するなど、BCP体制を大きく見直しました。

また、2015年には工場敷地内の大きな空地を利用して、太陽光発電システムを導入しました。これにより震災以降、福島県や地元広野町が積極的に進めている再生可能エネルギーの普及による復興や環境負荷低減社会の実現に大きく貢献できると考えています。

このように、この6年間お客様や地元の方々をはじめご支援いただいている皆様のご期待に応えられるよう、製造部門も管理部門も必死で復興に努力を続けてまいりました。ただ、やはり従業員には厳しさだけでなく、ゆとりや息抜きといったものも必要です。そのため、せめて食堂のエリアだけは従業員が心からゆっくりできる環境にしたいと思い、リラク্সルームを開設しました。床を明るくし、熱帯魚の水槽もおき、マッサージチェアや血圧計なども用意しました。さらに食堂の大きなガラス窓に向けてカウンターと椅子を設けました。ここからは、太陽光発電システムが展望できるようになっています。

メイコー福島工場は、現在男性が約100人、女性が約50人の工場と比較的人数の多い工場です。これからも、広野やその周辺地区には徐々に人が戻ってくると思いますが、その時に私たちのような会社が活動していることで、少しでも不安を和らげ安心していただくことができればと思っています。

そして、このメイコー福島工場が復興の「モデル企業」となれるよう地域に活気を与えていきたいと考えています。

私たちの工場が、これまで復興のために頑張ってきたのは、国や県、広野町などの地方自治体、お客様やお取引先様、近隣の企業様など様々な方々の支えがあったからこそと心から思っています。改めてお礼申し上げます。まだまだ、課題は山積していますが「忘れない、復興スピリッツ！」を肝に銘じ、今後も地域に根ざした良い工場を目指して皆で努力してまいります。